

免震装置「NS-SSB®」普及加速へ 累計1500台突破、海外展開も視野

新日鉄住金エンジニアリング

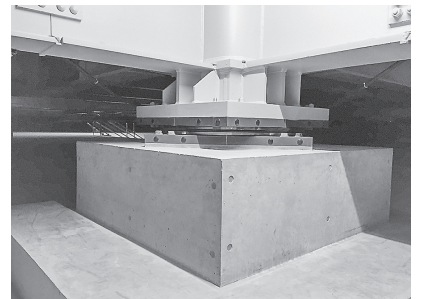
営業推進と海外展開を視野に入れ、普及を加速させていく。

「NS-SSB」はステンレス製のスライダートすべり板、鋼製のコンケイブプレートで構成される球面すべり免震装置。「NS-SSB」のみで支承・復元・減衰の機能を有し、本装置単独で免震建築物を構築できる。設計要求に応じて他のダンパーを組み合わせたことも可能だ。

新日鉄住金エンジニアリング(本社・東京都品川区、藤原真一社長)はこのほど、建築向け免震支承の球面すべり支承「NS-SSB」の出荷数が累計1500台を突破した。今後さらなる

「NS-SSB」を使用した免震建物では、免震層の固有周期(接線周期)は建物重量の影響を受けないので、積載荷重の変化の大きい物流施設などに最適。また従来難しいとされてき

た軽量建物でも免震化が可能で、建物用途によらず適用できる。そのほか、免震層のねじれが生じにくいいため複雑な平面プランや増改築にも対応しやすい。製品を構成するスライダートすべり板はコンピュータ制御による高精度の機械加工で製造されるため、寸法ばらつきは非常に小さく、経年変化もほとんどない。繰返し性能にも優れているため、長周期・長期継続地震動に対して有効であり、施主や建物使用者にとってメリットが多い。装置選定や免震設計が容易にできることから設計期間短縮が可能。装置自身がコンパクトなので施工時の掘削量の削減



免震装置「NS-SSB」設置状況

減など建設時のメリットも大きい。

ラインアップは「中摩擦タイプ」(摩擦係数0・043)と「低摩擦タイプ」(同0・013)があり、建物に要求される性能に応じて組み合わせが可能。サイズも豊富に取りそろえている。2017年に最大変形量を950μへ拡大し、

大変形への対応が可能となった。また中摩擦タイプについては2時間耐火も対応でき、中間層免震(柱頭免震など)への適用も可能だ。いずれも国土交通大臣認定品。出荷時には摩擦係数を確認するため全数出荷試験を行っている。従来、出荷試験は、千葉県富津市にある

掛かりとする。「NS-SSB」は2014年に発売以来、累計27物件に採用された。同社は「装置の品質安定性・ばらつきのお小ささ・設計の容易さ・施工時メリットなどを評価いただき、認知度は高まってきた。今後も理解活動に努め、採用を働きかけていく。欧米ではメジャーな『鉄の免震』の普及に注力していく」と普及加速に意欲を見せている。

同社試験機で対応していた。需要増と効率的な運用のため、2018年7月、製造工場の扶桑機工(大阪府堺市)近郊に試験機を増設した。

同社では免震装置の「NSダンパー」、制振・耐震装置の「アンボンドブレース」、NS Steel Panel(鋼製パネル)などの免震装置デバイスも取りそろえている。

「第12回太平洋鋼構造会議」 発表論文abstractを募集

日本鋼構造協会

日本鋼構造協会(会長 藤野陽三・横浜国立大学上席特別教授)は来年11月9日、東京工業大学で「第12回太平洋鋼構造会議(PSSC2019)」を開催する。現在、論文abstractを募集中だ。

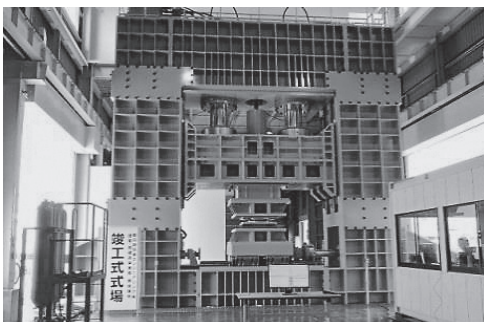
PSSCは、1986年から太平洋鋼構造協議会(11カ国参加)の各国持ち回りで3年に1回開催されており、日本での開催は1992年以来約30年ぶりとなる。今回の国際会議は「Steel Structures with

Resilience and Sustainability」をテーマに、自然災害に対する防災・減災技術、インフラの長寿命化、維持管理・更新技術など世界各国が抱える技術課題を共有化し、海外の専門家との交流を深めると同時に、わが国の優れた鋼構造技術を海外に発信するイベントになるものと期待されている。また、土木・建築

分野を横断した鋼構造についての論文発表、意見交換など、国内外の研究者やエンジニアが交流を深める場となり、世界的権威である学識者を招いての基調講演も予定されている。

現在、論文abstract(300字)を募集中。締め切りは1月末。問い合わせ先はE-mail:pssc2019@ec-intl.co.jp。

今後の海外適用への足



堺試験所に設置された「NS-SSB」の第2試験機